

FP まつもと通信

ちょっと得する「保険」や「年金」についての話題をお届けします。

ご挨拶

すごいニュースが飛び込んできました。
あの「マークン」が日本球界に帰ってきた！

米大リーグヤンキースからフリーエージェントとなっていた「マークン」（田中将大）が、数ある巨額のオファーを顧みず、東日本大震災から10年の今年、なんと8年ぶりに古巣楽天イーグルスに戻ってくることになりました。

プロ野球に興味のある方も、ない方も、とてもワクワクするニュースだったのではないのでしょうか？

今年は延期されたオリンピックも開催予定です。コロナ、コロナで重苦しい世の中の雰囲気、忘れさせてほしいですね。



今月号のちょっと気になるお金のコラム

確定申告の季節です。コロナで受取った給付金や助成金の申告は必要？マスクやPCR検査は医療費控除の対象？などを整理しました。

人口減少 12年前倒し

新型コロナによる在宅のテレワークなど未来が前倒しで実現しているように思えます。

そんな中、昨年12月に少し気になる未来の前倒しの記事が掲載されました。

「出生数、来年80万人割れも コロナ下 想定超す 速さ 妊娠届1～10月5.1%減」（日本経済新聞 2020年12月25日）

この記事によると、今年の年間出生数は80万人を下回る試算ができた。そうすると2017年に国立社会保障・人口問題研究所が示した最新の推計を12年も前倒しになる。年金の支給額減少や医療費負担の増大などのしわ寄せが若年世代に一段と向かえば、経済不安などから結婚や出産をさらにためらう悪循環に陥る、とあります。

将来の社会保障制度の維持に少し不安を感じますが、一方、人口減少に向けての制度の改革も行われています。高齢者雇用安定法（令和3年4月施行）では70歳までの就業確保が企業の努力義務となります。また年金も受給開始を75歳まで繰り下げることができるようになる予定です（2022年から。繰り下げ1カ月当たり0.7%の増額になる）。

このような制度を上手に活用することも念頭に置きながら、自分でできる準備はしっかりとしておくことが大切になりそうですね。



F P 松本相談センター
ファイナンシャルアドバイザー
媚山裕之

〒390-1702

長野県松本市梓川梓856-26

0263-76-1250

090-8741-7358

info@fp-matsumoto.com

<https://fp-matsumoto.com>



2012年から2015年までの3年間、社会保険労務士として「年金事務所における年金相談業務」に従事。そこで、数多くの“悲惨な老後の実態”を目の当たりにし、老後に向けた資産形成の必要性を痛感。国も勧める、“確定拠出年金”や“つみたてNISA”を活用した「長期・分散・つみたて投資」を真面目に、地道に推進。クイズやゲームを活用した『つみたて投資セミナー』は「わかりやすく、ためになる！」と多くの受講者からご支持をいただいております。

確定拠出年金加入者のための資産運用ガイド

積立投資の推移



N社バランスファンドのデータによる（コスト控除後）

	積立合計額	株式75%	株式50%	株式25%
2020年11末	450,000	522,912	508,718	493,458
2020年12末	460,000	541,117	524,522	506,826
2021年1末	470,000	554,110	536,378	516,916

株式や債券の特徴をよく理解して、様々なニュースや情報に惑わされず投資を長期継続することが成果に結びつきます。

2017年3月から開始した積立投資は図表のようになりました。

確定拠出年金のような長期の積立投資で成果を得るためには以下のポイントが大切です。

投資期間に応じた資産配分

積立期間が長い場合には株式の比率を多く、受取時期が近くなったら値動きが小さい債券の比率を多めにする。

大幅に値下がりした場合

積立期間が十分にある場合は、株式への資産配分の増額、掛金の増額を検討する。

株式・債券の特徴を理解して長期継続する。

NYダウ 後半失速に

	日経平均	NYダウ	ドル円
12月末	27,444.17	30,606.48	103.29
1月末	27,663.39	29,982.62	104.73
	0.80%	-2.04%	

1月20日に31,188ドルの高値を付けたNYダウ平均はその後失速、25日からの最終週で1,000ドルを超える下落をしました。

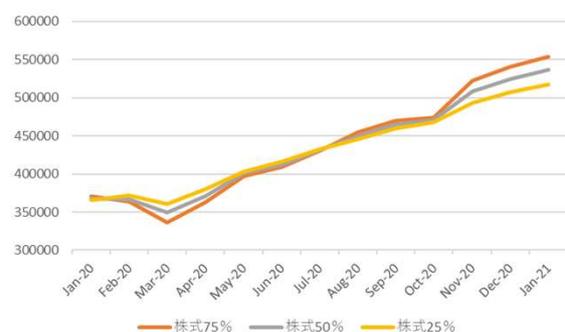
コロナがまだ終息しない中、昨年3月の安値からほぼ一本調子で約67%の上昇をしています。

コロナの状況、大統領が変わった米国の状況によりマーケットは大きく動くこともあると思いますが、値動きを解説するニュースに惑わされずに積立を継続していきましょう。

株式比率による値動きの特徴を理解しよう

下図は積立推移グラフの2020年1月以降の部分拡大したものです。株式比率が高いファンドは株式比率が低いファンドに比べて、日々の値動きは大きいものの値上がりも大きくなっていることがわかります。

これを見ても、長期の積立投資では株式比率を多く、解約時期が近づいてきたら株式比率を下げる、ことが有効であることがわかりますね。



当コラムは、商品選択の考え方、価格変動やニュースなどにどう対応するべきかについての一つの考え方をお伝えするもので、特定の運用商品、運営管理機関を推奨するものではありません。また、特定の商品の将来のパフォーマンスを約束するものでないことをご理解の上、ご覧ください。記載の情報（税制・社会保障制度・金融商品・マーケット・価格情報等）は発行日時点での情報に基づくもので将来は変更になることもあります。数値は公表されているデータに基づき当社にて計算・加工をしていますが、正確性を保証するものではありません。

確定拠出年金加入者のための資産運用ガイド

ドルコスト平均法の効果を再確認する

毎月定額の積立をすることを「ドルコスト平均法」と言います。

今月は積立シミュレーションで利用している株式比率75%のファンドを例に、2019年末に140万円を一括で投資をした場合と毎月10万円ずつの積立投資をした場合の違いを確認してみたいと思います。

下表は2019年末に140万円を一括で投資した場合の推移です。19,819円（基準価額）で140万円分購入しているので、購入口数は70.639口になります。8月に1口当たり5円の分配金が出ましたが、この分も再投資をしているので8月から口数が増えています。

3月末には140万円の元本が117万になりましたが最終的には1,554,454円になりました。

	基準価額	分配金	保有口数	投資元本	評価額
Dec-19	19,819		70.639	1,400,000	1,400,000
Jan-20	19,489		70.639	1,400,000	1,376,689
Feb-20	18,605		70.639	1,400,000	1,314,244
Mar-20	16,699		70.639	1,400,000	1,179,605
Apr-20	17,486		70.639	1,400,000	1,235,199
May-20	18,690		70.639	1,400,000	1,320,248
Jun-20	18,759		70.639	1,400,000	1,325,122
Jul-20	19,302		70.639	1,400,000	1,363,479
Aug-20	19,938	5	70.657	1,400,000	1,408,406
Sep-20	20,147		70.657	1,400,000	1,423,527
Oct-20	19,903		70.657	1,400,000	1,406,286
Nov-20	21,541		70.657	1,400,000	1,522,022
Dec-20	21,879		70.657	1,400,000	1,545,905
Jan-21	22,000		70.657	1,400,000	1,554,454

右上表は同じ商品を毎月10万円ずつ積立をした場合の推移です。最終的な評価額は1,581,686円と一括の場合よりも多くなりました。

価格の推移は同じですが保有口数の違いが評価額の違いに表れていることがわかります。毎月の購入口数を見ると、価格が高いときには少ない口数、価格が低いときには多くの口数を購入していることがわかります。

	基準価額	分配金	購入口数 /月	保有口数	投資元本	評価額
Dec-19	19,819		5.046	5.046	100,000	100,000
Jan-20	19,489		5.131	10.177	200,000	198,335
Feb-20	18,605		5.375	15.552	300,000	289,339
Mar-20	16,699		5.988	21.540	400,000	359,697
Apr-20	17,486		5.719	27.259	500,000	476,649
May-20	18,690		5.350	32.609	600,000	609,469
Jun-20	18,759		5.331	37.940	700,000	711,719
Jul-20	19,302		5.181	43.121	800,000	832,320
Aug-20	19,938	5	5.016	48.149	900,000	959,986
Sep-20	20,147		4.964	53.112	1,000,000	1,070,049
Oct-20	19,903		5.024	58.136	1,100,000	1,157,090
Nov-20	21,541		4.642	62.779	1,200,000	1,352,317
Dec-20	21,879		4.571	67.349	1,300,000	1,473,537
Jan-21	22,000		4.545	71.895	1,400,000	1,581,686

評価額 = 保有口数 × 価格

資産運用ではどうしても価格の動きに注目しがちですが、実際に資産を大きくする、という観点では保有口数を大きくすることが重要であることがわかります。

「値動き」という自分ではコントロールできないものに焦点を当てるのではなく、「口数を増やす」という自分でコントロールできることに焦点を当て、あとは投資先の企業が成長をすることで価格が上昇するのを待つ、という視点が長期の積立投資では大切になります。

ある程度まとまった資金ができてから始めよう、という方もいらっしゃいますが、たとえ少額であってもなるべく早く始めて時間をかけて保有口数を少しづつでも増やしていきましょう。

そのためにライフプランや家計を確認して積立に回せる資金をしっかりと作っていくことがポイントになります。

ちょっと気になるお金のコラム

確定申告の季節がやってきました（2月16日～3月15日）。

還付申告は、確定申告の期間外でも可能です。密を避けるためにも期間外の申告、PC等による申告をしても良いかもしれません。

年末調整をした方で確定申告をした方が良い場合

- 年末調整で控除書類の提出ができなかった場合
- 年末調整以降に扶養家族ができた場合
- ふるさと納税をして「ワンストップ特例制度」を利用していない場合
- 寄付をした場合
- 住宅ローンを組んだ場合
- 転勤等で転居費がかかった場合（給与所得者の特定支出控除という控除項目になります。職務に必要な資格取得、書籍、単身の人の帰宅費用などがあります）
- 医療費の支払いが10万円を超えている場合
- 災害や盗難で被害にあった場合

当てはまる方は還付が受けられますので税務署に確認してみてください。

予防のためのマスクやPCR検査は？

医療費控除は、①医師等による診療や治療のために支払った費用、②治療や療養に必要な医薬品の購入費用、が対象です。

感染予防のためのマスク購入費用、自己の判断によるPCR検査等は医療費控除の対象になりません。ただし検査で「陽性」となり継続して治療をした場合には医療費控除の対象となる場合もあります。

新型コロナに関連する助成金等の課税について

ここでは事業をしていない方でも関係がありそうな助成金、給付金について取り上げたいと思います。

おもな非課税扱いの助成金等

- 特別定額給付金（10万円給付）
- 子育て世帯への臨時特別給付金
- 学資として支給される金品
- 学生支援緊急給付金
- 低所得のひとり親世帯への臨時特別給付金
- 新型コロナウイルス感染症対応従事者への慰労金

おもな課税扱いの助成金等

- 持続化給付金
- Go Toキャンペーン事業における給付金

Go Toキャンペーン事業は、値引きではなく助成扱いだったのです。旅先で本人確認書類の提示を求められる理由がわかりました。

所得の種類は一時所得となります。一時所得は50万円の特別控除があるので実際にこれで課税される人は多くはないと思いますが、懸賞金、競馬などの払戻金、保険の満期金・解約金など、他の一時所得と合算して50万円を超えると申告が必要となります。

保険の満期金・解約金については契約関係や受取り方によっても課税関係が異なる場合があるので気になる方はお問合せください。

確定申告についての詳細は国税庁HPをご確認ください。